「地域を支える建設業」検討会議で

県建協が提示、意識改める

「建設業の地域貢献『認識されていない』」

8月9日に開かれた県の「地域を支える建設業」検討会議で、県建設業協会が担い手確保を進めるうえでの課題として「建設業が貢献できる仕事だということが、若者たちに認識されていない」ことを挙げた。県建協と県建設部などが協力して中学校で進める職場体験講習での生徒たちの反応や、同講習にコンテンツ協力する新建新聞社が比較・分析した全国の新入社員調査結果を受けてのもの。県は「われわれも含めて、建設業が社会に貢献している仕事だということを情報発信していく必要がある。連携して取り組んでいきたい」とした。

県建協がまず取り上げたのは、今年度協会と県とで開いている中学校での職場体験講習のアンケート結果。生徒たちから寄せられた声で、講習前に建設業に抱いていたイメージとしてあがったのは「道路とか家をつくってる人」「力仕事が得意な人がたくさんいるイメージ」といったものから、「朝早くから夜中までずっと働いている」「疲れそう」「ブラック」といったものだったとし、これが講習後には「人のための仕事、人を守る仕事だと思った」「災害時にも活躍していると聞いて、大変だけどやりがいのあるかっこいい仕事だなと感じた」「災害が起きた時に一番早くに出動しているということを初めて知った」に変わったという。

これについて、県建協は講習の成果であると同時に、「子どもたちが、建設業が社会に貢献する仕事だと立つ、感謝される」、3位に「やりがい（やることの意味や意義が強く感じられる）」なっていることを指摘。「建設業に入っている新入社員にも、建設業が社会貢献しているという認識が低い」とした。

「なぜこうなっているのか。中学校の職場体験講習で講習後にイメージが変わったことが重要で、中学生や、その保護者、そして学校の先生方に向けて、どうやれば貢献していることを知ってもらえるのかを考えていく必要がある」

◇　◇

報告を受け、県建設部は「建設業の仕事内容が正しく理解されていないということを改めて感じた」とし、技術管理室の増澤邦彦室長は「社会資本の整備のみならず、地域を守っていること、災害復旧や除雪も含めて建設の仕事が社会に貢献する仕事だということを県民の皆さんに、あらゆる機会を捉えて伝えていきたい」とした。

同室長は具体的な施策として「例えば、今後実施する予定の市民見学会など親子が参加するような機会に建設業の仕事を伝え、理解してもらうことも大切だと考えている」とし、見学だけでなく内容を伝えることにも注力することを示した。

入職支援冊子でも「貢献」認識へ

県建協では今後、中学校向けの体験学習の実施を県下で広げていくほか、建設業が地域に貢献していることを伝えるためのものとして入職支援冊子『LIFE』の新版を県や新建新聞などと協力して制作中だ。重視するのは「知らなかったことを知ってもらう」ことと、「いかに社会の役に立っているのか」を伝えること。体験学習の場や見学会などで配布し、「子どもたちの教育の場でも使ってもらうものにして、認識を変えていきたい」（県建協担当者）とする。

体験学習で得た「体験前イメージ」と「体験後感想」

〈体験前のイメージ〉

・道路とか家とかいろいろ作ってる人
・朝早くから夜中までずっと働いている
・地域の大黒柱で縁の下の力持ち
・男性ばっかりのイメージ
・影から生活を支えてくれる
・重労働／力仕事・疲れそう／大変そう
・大変そうだけど楽しそう
・力仕事が得意な人がたくさんいるイメージ
・クレーン車など重機械が多そう
・とても危険／事故が多い／ブラック

〈体験後の感想〉

・建設業は何をやっているのか具体的にわかったし、生活になくてはならない職業だということがわかった
・人のための仕事、人を守る仕事だと思った
・みんなで協力して地域の人たちを助ける勇者一行
・建物とか建てるのに技術も必要だし大変な仕事って感じがしたけど、今は色々な仕事があって、災害時にも活躍していると聞いて、大変だけどやりがいのあるかっこいい仕事だなと感じ
・24時間寝ないで復旧作業をしてくれた人々にとても感謝したいし、この学習を通して大変さを分かったのでそのような人々を見かけたら声をかけていきたいと思った
・災害があったときに救助隊などよりも先に動いていることを知らなかったのでとてもありがたいと思ったし、イメージが180度変わりました
・千曲川が氾濫した時一番先に現場に行っていて驚いたし危険なのにやっていてすごいなと思った
・除雪を建設業の人がやるということが初めて知った
・建設業は男の人がやるというイメージがあったけれど、建設業で働く女性もいて、意識を変えたいと思った
・私はあまり建設業は就職する方が少ないイメージを持っていたがたくさんの人が協力して働いているということを知ってとても興味が湧いた
・少し建設業の仕事をしてみたいと思った
・災害があったときに救助隊などよりも先に動いていることを知らなかったのでとてもありがたいと思ったし、イメージが180度変わりました

データで見る「貢献」の重要度と建設業のずれ

■リクルートマネジメントソリューションズ調査（2023.06）

今年の新入社員（全業種）を対象に「仕事をするうえで重視したいこと」

1位：成長（自分が成長できる）28.8%
2位：貢献（人や社会の役に立つ、感謝される）26.7%
3位：やりがい（やることの意味や意義が強く感じられる）20.8%

■ウィルオブ・コンストラクション調査（2023.06）

今年、建設業に入社して３年目までの若手社員に聞いた「建設業で働こうと思ったきっかけ」

1位：「手に職を付けたいから」男 37.0%／女 39.0%
2位：「色々なスキルを身に付けられて、自己成長につながると感じたから」男 18.0%／女 31.0%
3位：「モノづくりやスケールの大きい仕事に興味があったから」男女 24.0%

↓

ワースト５位：「社会に貢献できる仕事に就きたいと思ったから」男女 16.0%

※同調査では「建設業で働いていて良かったこと」も聞いているが、そこでは「社会に貢献できていると感じる」が男女20.0%で入っている（「きっかけ」時よりポイントが上がっている＝入ってから貢献できる仕事だと気付いた）

新建新聞
THE SHINKEN PRESS
2023年（令和５年）8月15日 火曜日
毎月 5日・15日・25日発行
購読料：半年 13,200 円（税込）

無料トライアル随時受付中
建設情報をより早く、もっと身近に
新建JOHO digital
▼トップページ右上「試供・お申込み」をクリック
https://www.shinkenpress.jp/

「地域を支える建設業」第49回全体会議

県建設業協会は週休２日制の普及に向けた市町村への働き掛けや、優良技術者表彰制度の改善を要望。県は継続的に意見を交わしたいとした。 2

1 建設業の地域貢献「認識されていない」
2 県、総合評価方式の評価項目・評価方法を見直し
2 県建協女性部会が支部活動を拡大
3 社説「『認知』を広めるではなく『認識』を変える」
3 県が週休２日工事を発注者指定型に移行
7 建設投資見通し９年連続で拡大

「新建ウィークリーニュース」「ニュース解説」Youtube で配信中

長野県内の１週間の建設関連ニュースが短時間でわかります。また、注目の出来事のポイントも解説。「新建フューコン」で検索してください。

SHINKEN WEEKLY+ NEWS++

発行所：新建新聞社
長野本社／〒380-8622　長野県長野市南県町686-8
TEL026-234-1115
東京本社／〒102-0083　東京都千代田区麹町2丁目3番地3
FDC麹町ビル7階　TEL03-3556-5525
購読のお申し込み・お問い合わせ　フリーダイヤル 0800-222-8386
紙面・記事へのご意見・ご質問　編集部 026-234-1118（直通）

皆さまのご意見・ご要望をお寄せ下さい

QRコードから専用サイトにアクセスしてご記入ください。今後予定する「読みたい」記事などもございましたら、どしどし声をお寄せください。

Eメール：honshi@shinkenpress.co.jp

ASSIMILATE with NATURE

ECO FRIENDLY YAMATOMI
たくさんの「しあわせな風景」をつくります。
つなぐ。
河川や森林、道路や住宅地…
私たちのコンクリートブロックは、未来へと続く自然と
人々の生活を見守っています。
人と自然と生物の、豊かな環境やこの風景を次へとつなげていく。
私たちのものづくりは、社会と自然環境と共に成長し、
たくさんの「しあわせな風景」をつくります。

ヘイベック間知石
日本の原風景ともいえる谷積み模様を大型ブロックで再現できます。人工的な模様になりやすい大型ブロックですが、継ぎ目を感じさせない自然な石積みの風合いを醸し出しながら、施工の大幅な省力化が可能です。
山富産業株式会社
長野県松本市井川城 1-2-9　TEL 0263-25-0387(代)
https://www.yamatomi.co.jp/